

歴史ドラマ時代考証担当者と現役大学院生が語る 『ジャパナレッジ版 史料纂集・群書類従』活用法 Q&A

(作成：八木書店)

事前にいただいたご質問や、講演中にいただいたご質問への回答をまとめました。

(掲載にあたり、ご質問内容の一部を編集しております。)

Q. どの分野の研究等において辞書に載っていない言葉と出会うことが多い印象ですか。また、辞書にない言葉を調べるものとして意外な研究分野等がありますか。

A. 日本史研究に限った話になりますが、中世古記録・古文書のほか、軍記物語や説話集を読んでいると、少なからず未収語が出てくる印象です。

たとえば高橋秀樹『古記録入門』(吉川弘文館、2023年)には、「中世古記録関係文献目録(1998～2021年)」が収録されています。その中に「記録語」についての書籍・論文、辞書に載らない言葉を個別に研究している国語学の論文などがリストアップされているので、参考になります。

Q. 参考になりそうな本を検索するときや、検索用語を選ぶときに工夫していることなどを教えてください。

A. 基本的な辞書に加えて、「古文書(用)語」「古記録(用)語」の題をもつ書籍・論文や、国会図書館のデジタルコレクションでの全文検索を試します。

用例検索の際のワードチョイスでは、たとえば、言葉をなるべく細かく切ること、または、あり得そうな別表現で検索し直してみることがポイントです。

誰かが言っていることを調べるのではなく、誰も言っていないことを調べなくてはならないときは、用例検索が大事です。これによって辞書に載っている意味も再検討することができます。

Q. 大学生がジャパナレッジを使うきっかけや、図書館からどのように広報したら学生もジャパナレッジの存在に気付くか、アドバイスはありますか。

A. 百瀬の場合は、学部ゼミで先生に教えてもらって知りました。同じような例はおそらく多いので、ゼミ持ちの先生に周知してもらうなど、協力してもらえるとよいかもしれません。

ジャパナレッジは、まずは辞書として使い始める方が多い印象があります。日本国語大辞典・国史大辞典などの著名な辞書が検索できるということをアピールすると効果的だと思います。群書類従・史料纂集はその次の段階でしょうか。

Q. 時代考証でよく利用する書物はありますか。

A. 演出側の要求が「手紙」=書状しよじょうが多いため、そうした史料が掲載されている書物をよく利用します。

東日本と西日本で「方言」「使い回し」などを考慮して、西日本の場合は『大日本古文書』毛利家文書・吉川家文書・小早川家文書等を参照します。東日本の場合は『新潟県史』中世編・『大日本古文書』上杉家文書、『上越市史』の上杉謙信および景勝の文書集等を参照しています。

女性から男性(妻から夫へ等)などについては、前田土佐守家資料館図録『増補改訂 芳春院まつの手紙—芳春院没後400年—』(同館、2017年)・NHKプロモーション編『江 姫たちの戦国—2011年 NHK大河ドラマ特別展—』(日本放送出版協会・NHKプロモーション、2011年)等を参考にしています。

Q. 時代考証の成功体験と失敗体験とその理由について聞かせてください。

A. 「成功」は、当方が提示した文書の宛名によって、演出が変更されたことです(「麒麟がくる」)。

「失敗」は、「失敗」とまではいかななくても、文書に使用されない文言を用いるか否か、時間との兼ね合いで考証陣に相談できなかったことです(「どうする家康」)。

Q. 歴史的事実をドラマとしての面白さにどこまで反映させるか議論するのは、難しいですか。

A. ドラマはやはり「娯楽」。視聴者が楽しめることを優先するため、史実は「おざなり」になってしまう場合もあります。

ただ、演出側が「新説が面白い」と判断した場合、採用されることもあります。

Q. 銀採掘や交易記録を収録した巻があれば教えてください。

A. ぜひ、探している文献に関連しそうなワードで Web 版史料纂集・群書類従の検索をお試しください。

『群書類従（正・続）』所収の史料は、『群書解題』（続群書類従完成会発行）で輯ごとの所収内容の概要を把握することができますので、そこから目当ての文献を探すこともおすすめです。

Q. 近現代史研究にも応用できますか。

A. 現在（2024年時点）の Web 版史料纂集・群書類従の収録範囲は古代から近世までですが、近現代の物事や制度、言葉がいつの時代に由来するかなどを網羅的に調べられます。

Q. 古記録と古文書とはどのように違うのですか。

A. 広義の「古文書」（古い書類）という意味では、古記録も古文書のなかに含まれますが、史学研究において「古記録」とは前近代に書かれた日記類を指します。それに対して、書状（手紙）や証書類など、主に発信者と受信者のあいだで交わされた歴史的な史料を「古文書」と呼んでいます。

「史料纂集」では上記の分類に拠って「古記録編」「古文書編」の2種類を刊行しています。

Q. 「史料纂集」が一次史料、「群書類従」が二次史料ということについて、もう少し詳しく教えてください。

A. 厳密には、「史料纂集」というシリーズの刊本そのものは原史料を翻刻・校訂した編纂物ですが、その収録内容は「いつ」「どこで」「だれが」作成したかということがわかる一次史料に限られ、それらの確かな底本情報を備えた信頼性の高い史料翻刻です。いっぽう、「群書類従」とは、江戸時代の学者である塙保己一が様々な蒐書を後世に編纂した叢書であり、収録内容は多岐にわたるほか、底本情報の不確かなものも多く含まれます。

今回の講演では、時間の都合や、史学研究を専門とする方以外にも両者の違いをわかりやすくお伝えするために「史料纂集」＝一次史料、「群書類従」＝二次史料、と簡単にご説明させていただきました。

Q. 使い方のコツを知りたいです。

A. 検索ワードの工夫が大事です。たとえば絵巻物について検索したいとき、「絵巻」ではなく「○○絵」や「絵詞」で検索しないと歴史的な史料はヒットしにくいです。辞典系コンテンツとの連携を活かして、検索に有効な言葉を探すと効果的です。（2023 フォーラム 石井悠加先生講演より）

and / not 検索や年月日・ジャンルでの絞込みを色々と試すのもおすすめです。

Q. 大学の授業で群書類従を使って調べ物をさせたいです。どのような授業のアイデアがありますか。

A. 『Web 版「群書類従」活用法』として、「そうめん探求」（第1弾）、「聖徳太子はいつ生まれたか」（第2弾）の2本のコラムを下記の八木書店ウェブサイトで開催中です。

SNS（史料纂集 X アカウント）でも身近な物事にまつわる史料記事を発信中です。



X (旧 Twitter)
@ShiryōSanshu



Web 版史料纂集・群書類従 お役立ちコンテンツ
<https://company.books-yagi.co.jp/archives/news/9232>

